

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を職員に定着できていない。	法人の理念「誠心誠意」を基に開設時、職員たちはホームの理念を考え、「共生笑喜」とし決めた。二つの理念は説明書きを添えてリビングに掲げられており、来訪者や職員が常に目にすることが出来る。職員は理念を理解しケアにつなげている。	職員の異動等で新たな職員を受け入れる時にホームの理念・方針を伝えたり、日々の業務において理念を共有するための話し合いの機会を持ち、ケアに反映されていくことを望みます。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的な交流はない。必要時に近隣の美容院に出張を頼んだり、消防訓練にボランティア参加してもらっている。	運営会社の本部が代表して月一回地区の「とりさる隊」に参加し清掃活動を行っている。近くの丸子修学館高校の「職場体験」の受け入れや野球部有志のボランティアも受け入れている。7月には獅子舞が来て利用者の厄払いをしてくれたり、音楽ボランティアが踊りや歌の披露をし利用者とはふれ合っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	特に行っていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこで意見をサービス向上に活かしている	利用者やサービスの実際、職員の推移等、隠さずに報告している。市職員から教わった事故報告の処理を行っている。しかしサービス向上にはつながっていない。	小規模多機能と合同で2ヶ月に一回開催している。家族代表、御嶽堂自治会長、上組区長、民生委員、近隣住民、自治センター職員、地域包括支援センター職員が委員となっている。開催1ヶ月前に返信用はがきを同封し開催日を連絡し、ほぼ全員の方の出席をいただいている。委員の方の意見や質問は職員の気づきや参考になることが多く感謝している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に必ず市福祉課担当者に参加してもらっている。	事故報告等で相談し教えていただいている。市派遣の介護相談員2名が3ヶ月に1回来訪し利用者の話を聞いている。介護認定更新の認定調査員の訪問時にはホームより情報を提供し調査に協力し、区分申請の代行もしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	危険認識のできない方に対して、家族と承諾書を取り交わしたうえで、ベッド4点柵を行っている。また、玄関は居住スペースが2階であることから階段転落の未然防止のためオートロック錠である。	言葉や態度による拘束をしないケアを職員は意識し、拘束は行っていない。利用者の話しかけに業務の手を休め対応していることを見ることができた。ホームの入口は施錠していないが2階の実質的な玄関はオートロック様式の扉で安全上、施錠がされている。	研修や新人教育などの参考資料として「身体拘束に関する手引き書」などのマニュアルを整備し、「身体拘束をしないケア」に取り組まれることを期待します。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	特に行っていない。		

グループホームつばさ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	特に行っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際に必ず説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に利用者家族にも参加してもらっている。また、その都度いただいた要望には迅速に対応している。	回数の違いはあるが、家族や身内の方の訪問の頻度は総体的に多い。職員はお茶を出し、本人の様子を伝えながら家族の要望などを聞き出している。今後、ご意見箱の設置等の工夫もしていきたいとの意向もある。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度ミーティングを開催し、その場で要望等出してもらっている。ミーティングの場で改善の余地あれば業務内容に反映している。	毎月一回の定例会を施設長はじめ全職員参加で行っている。利用者の状況や業務に関する改善等の内容で行われている。管理者・主任は職員から個別に相談されることも多い。	新人の職員が多い職場であることからミニカンファレンスを日々おこなうことで課題を見つけ、お互いの意見交換を通じ解決していくことを望みます。若い職員の今後の成長と活躍を期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	整備されていない。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修参加は行っているが、全員に機会を与えることはできていない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	特に行っていない。		

グループホームつばさ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	計画に反映するよう、本人から要望を聞き取っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用申し込みの段階で聞き取り、内情を把握したうえでサービスの提案や導入を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	受診対応が難しい家庭に対しては、往診可能な医療機関に主治医変更を提案し、家族負担の軽減に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除や洗濯干し、洗濯ものたたみ、茶碗拭き等、日常の中で利用者の役割として行ってもらっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	受診に関してはよほどの事情がない限り、家族に対応してもらい、本人との関係が途絶えないようにしている。また、本人の必要物品も預り金より購入することは最小限にとどめ、面会の際に依頼するようにしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔から使っていた美容院に出張を頼んだりしている。また、友人や親類等家族以外の方も出入りしやすい雰囲気・対応に心がけている。	家族と一緒にお盆の墓参り、可愛い孫の結婚式に出席するなどしている。利用者から電話をしたなどの要望があれば友達や家族と話ができるよう支援している。行事の度に併設小規模多機能型居宅介護事業所との交流があり、お互い知らない同士でも会話の中に「ああ、あそこの隣の人かね」と話が弾んでいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ぶつかり合う利用者同士に関しては同じことをするにしても職員が間に入る等ワンクッション入れている。利用者同士で助け合う場面も日常的に見られている。		

グループホームつばさ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	特に行っていない。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアマネが兼務であり、なかなか把握しきれないところがある。	現在は多くの利用者の方が自分の思いや意向を伝えられる。管理者は併設小規模多機能型居宅介護事業所と業務を兼任しているため利用者からの要望などの細かなことは他の職員が聞きだし、日常生活の中からも感じ取っている。また、職員間でも伝え合い共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	教師だった方にはレクリエーションの場で主導していただくよう促したり、大家族で家事を長年切り盛りしてきた方には掃除や洗濯ものたたみ等率先して行ってもらえるよう声掛けしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の様子に中で変化してきたことや介助の必要性について、職員間で相談ができるよう連絡ノートを用意し、把握ができるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護者からの利用者の状況の聞き取りや、1職員としてケアマネが業務に入る際に、必要な点を見極め、プランに反映している。	契約時に利用者の現状を踏まえ、利用者・家族にどのような生活をしていきたいかを聞き、職員の意見も加え計画作成担当者が作成している。評価及び定期的な見直しは3ヶ月で行っている。状態変化がある時は随時見直しを行っている。家族の方には来訪時に説明している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌・個人記録に気づきに対する記録を残している。聞き取りや状況を判断したうえで必要に応じて区分変更をかけている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	特に多機能化したサービスは行っていないが、家人に代わっての受診の付添や、必要物品購入の代行等行っている。		

グループホームつばさ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行っていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家人が受診付添が難しいケースについては家人の希望を聞いたうえで往診医療機関を進めているが基本は本人がかかってくる主治医を進めている。家人に間に入ってもらったり、事業所から直接医療機関に相談しながら、必要な医療連携をしている。	予防接種は協力医にお願いしている。利用者の主治医は本人と家族の希望する医療機関になっている。本人の主治医が往診することもある。受診は原則として家族にお願いしているが、家族の都合がつかない時には管理者か看護師が付き添うこともある。受診後は書面か電話で家族へ報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	小規模多機能看護師に密に医療面でのかわりを持ってもらい、受診や必要な処置を行ってもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中の状況確認を医療機関に足を運んで行っており、病棟看護師から状況を聞いている。退院前カンファレンスには必ず出席し、情報の交換や今後必要な面の聞き取りに努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合には特養等その状態に見合った福祉機関への入居申し込みの打診をしているのみ。	終末期をホームで支援を受けていたが病院に移られて亡くなられた利用者はいる。現在も1名の方が入院中である。ホームでの生活の安定を優先にし、今後は終末期支援体制づくりも考えていきたいとの意向もある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	特に行われていない。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を行っている。また、近隣住民に防災訓練への参加をしてもらい、有事の際の協力をお願いしてある。	年2回、災害訓練が予定されている。初めての訓練は昼間想定で小規模多機能と合同で春に行った。消防署の指導の下、通報連絡と消火の訓練を行い、利用者は職員の誘導を受けながら非常階段を使い避難した。利用者は初めての体験であったが冷静に行動出来た。地域住民も3名参加している。利用者の居室と食堂には「避難経路図」が見やすい場所に貼られている。	

グループホームつばさ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	特に意識して行っていないが、利用者の笑顔を引き出せるような声掛けを行っている。	開設当初は利用者の苗字に「さん」づけで呼ぶようにしていたが、現在は利用者が気持ちよく感じられる呼び方にし尊厳を大切に声かけている。全員が女性で苗字より名前に「さん」づけのほうが喜ばれている。居室のドアには個人情報等の関連から表札でなく個々の目印で区別できるようになっていた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	特に意識して働きかけはされていない。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	事業所の都合のタイムスケジュールで動いて部分が多い。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	髪の毛を整えたり、入浴後に来たい服を自分で選んでもらったりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	配膳・盛り付け・片づけ等、決まった利用者になりがちだが一緒に行っている。	大勢の利用者がテーブルの前に立ち、楽しそうな表情で盛り付けをしていた。職員手作りのヨーグルトが毎日食事やおやつの時に形を変えて食卓を賑わしている。誕生日には食事やお茶の時間にお祝いをしている。外食で回転ずしに行ったが都合の良い席が空いておらず、お寿司を買ってホームに帰り全員で食べたこともあった。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	医療機関からの指示がある方に対しては分量調整して提供している。献立については栄養士に作成してもらっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自立で口腔ケアができない方に関しては毎食後介助にて口腔ケア、または声掛け、磨き直しをおこなっている。		

グループホームつばさ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレ介助が必要な利用者に関しては訴えに応じてその都度トイレ介助。訴えが出来ない利用者に関しては行動から読み取りトイレ誘導している。	1名の利用者が入院時にオムツに変更され、病院の指示により現在オムツで対応されている。自立の方、職員の誘導で排泄される方と様々であるがトイレでの排泄を基本としている。居室にポータブルを置き使用している方もいる。後処理は職員が素早くしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日10時のおやつに自家製ヨーグルトを食している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	事業所のタイムスケジュールに合わせて入浴日や時間を決めている。	ホーム自慢の温泉水が使われている。利用者「温泉水です」と職員が話すと「やっぱり温まるね」と喜んでいるという。1週間に3回の入浴が予定されている。また、併設小規模多機能にリフト浴が設置されているので利用することもある。お風呂を嫌がる方はおらず、カラスの行水のように短い方や長く入っている方など自由気ままに楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれが好きな時に居室にて休んでいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	すべての職員が理解できるとは言い難い。処方内容証明の書類がある方については閲覧し把握することも可能。服薬内容に変更があった際には副作用を調べ変化の確認と必要な対応を取っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴に応じた得意分野でその方の能力を引き出せるよう工夫している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	減多に行えていない。	花見、外食等の年間の計画が立てられているが開設年度ということもあり計画通りには運べていない。そのような中、「上田元気プロジェクト主催」の映画観賞会に利用者と職員が一緒に出かけることができた。日々の生活ではホームの周辺を散歩している。	

グループホームつばさ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	行っていない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があるときは行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた造花を飾る等して、季節感が出るよう配慮している。	リビングを中心に居室が配置されている。キッチンのカウンターが広く作られていて職員と利用者が向かい合って作業が出来るようになっている。利用者も気軽に作業に関わっている。行事や外出時の写真、利用者の手芸作品などが壁面に飾られている。天窓から入る陽射しは柔らかく、窓から見える風景が季節の移り変わりを感じさせてくれる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	基本的に居住空間の中では自由に動いてもらっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前になじみのものを持ってきても良いとお話しているが、部屋のスペースの問題等で必要最低限の荷物しかない人がほとんどを占める。	ホーム備え付けのベッドと収納家具がある。利用者により家からの持ち込みは様々であるが、家族の写真や職員手作りの飾りが壁に貼られていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	部屋が分からなくなってしまう方もおり、各居室にお名前を掲示。奥まったトイレは表面的に見てトイレの場所が分かるようにくしてある。		